

9月4日(金)～6日(日)の3日間、高知県高知市と須崎市で開催された地震の学会(第43回歴史地震研究会(高知大会))に参加を致しました。1946年12月21日に発生をした昭和南海地震(和歌山県南方沖を震源とするマグニチュード8.0の地震)から80年の節目を迎え、高知県沿岸部で甚大な津波の被害が出たため、当地において開催されました。

◎研究会(口頭発表セッション)

9月4日と5日の2日間は、オーテピア高知図書館において、研究会(口頭発表セッションとポスターセッション)がおこなわれました。口頭発表では、「1944年東南海地震の被害救済：統制下の新聞を読み解く」、「高知県室津港周辺で見つかった隆起生物遺骸群集」といった南海トラフで過去に起こった地震に関する研究や、1619年八代地震、1662年寛文近江・若狭地震といった別の地域で起こった地震に関する研究もあり、非常に興味深く、地震の学びを深めることができました。また、2026年3月に歴史地震研究会初代会長である宇佐美龍夫先生がお亡くなりになったため、宇佐美先生の追悼セッションもおこなわれました。



◎研究会(ポスターセッション)

研究会では口頭発表セッションと併せてポスターセッションもおこなわれました。私は、研究会2日目に『埼玉県川口市・戸田市に残る1923年関東地震の記録～川口市(旧安行村)の「関東大地震實記」の調査』をテーマとした研究発表をさせて頂きました。約60分間の発表時間の中で、多くの研究者の方々がポスターを見て下さり、発表とポスターの内容に関して、コメントと質問を頂き、議論を致しました。私も、研究会1日目に、他の研究者のポスター発表を見て、議論をして、多くの発見を得ることができました。



◎公開講演会

研究会2日目の午後に、地震研究者の方々と地元の方々が集まる、「昭和南海地震80年」をテーマとした公開講演会がおこなわれました。南海トラフ地震の過去・現在・未来の3段階で、高知県の昭和南海地震の被害について(過去)、高知県の南海トラフ地震対策(現在)、将来の南海トラフ地震の政府の予測について(未来)という発表を3名の方に頂きました。キッチンカーやシャワーカーなどの設備、小学校などの避難所の拡充といった南海トラフ地震に対する多くの対策が講じられていることを知りました。



◎巡検

研究会3日目は、巡検がおこなわれました。午前中は、高知県立高知城歴史博物館を見学して、バスで高知市から須崎市まで移動し、宝永地震や昭和南海地震の発生により建てられた慰霊碑や、チリ地震の発生による津波の到達に関する石碑などを見学しました。また、身体の不自由な方も上ることができるスロープなどのバリアフリー設備の整った津波避難施設も訪れました。午後は、翌年開業する須崎市新複合施設(ミナトワ)を見学し、安政南海地震の発生や被害により建てられた塚や石碑を見学しました。雨の予報でしたが、晴れた中で巡検をすることができ、地震発生当時の被害を十分に学ぶことができました。



◎懇親会

1日目の研究会の後には、高知城ホール(高知城(写真 左下)の近く)において、懇親会がおこなわれました。魚介類などの地元産の食材などを使用した料理を食べながら、研究会に参加している研究者の方々と交流をおこないました(写真 中央)。自分が研究会に参加している方の中で最年少であるという話題もあったことで、すぐに馴染むことができました。また、研究会に参加をしている大学生・大学院生とも交流をおこないました(写真 右下)。研究に関するコメントやアドバイスを頂き、すごくいい経験になりました。



◎今後の展望

今回の研究会を通じて、今後は「関東大地震實記」の記録と現在の地盤特性との比較や、景気や情勢といった当時の時代背景、避難民に関する記録などの調査を継続しておこなう予定です。調査や考察をおこなった成果をまとめた論文を、学術誌『歴史地震』に投稿致します。